

低圧開閉装置及び制御装置－第 2-2 部：漏電遮断器

正 誤 票

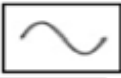
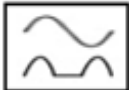


区分	位置	誤	正
本体	箇条 5 表 3 番号 1.1 の 事項の欄	テスト装置の操作手段（附属書 1 及び附属書 2 の 7.2.6 参照）を“テストボタン”の語句，記号“T”などで示す。	テスト装置の操作手段（附属書 1 及び附属書 2 の 7.2.6 参照）を“ <u>テストボタン</u> ”の語句，記号“T”などで示す。
	番号 1.2 の 事項の欄		(最終行の下に，次を追加) 附属書 2 の漏電遮断器では，“ <u>直流成分を含む又は含まない</u> ”ものの表示はしなくてもよい。
			(番号 1.3 の下に，1.3A 及び 1.3B の行を追加) 1.3A 1.3B
			(番号 3.3 の下に，3.3A の行を追加) 3.3A
		別途 a)参照	別途 b)参照
附属書 1	8.1.2.2.3 b) 2)	2) <u>組合せ試験シーケンス JIS C 8201-2-1 の附属書 1 の 8.3.8.2 (過負荷引外しの検証) による過負荷引外しの正常動作を検証するために，JIS C 8201-2-1 の附属書 1 の 8.3.5.2 (過負荷引外しの検証) に規定する単極試験を，電圧相の可能な組合せで順番に行う 2 極試験に置き換えて行う。</u> <u>JIS C 8201-2-1 の附属書 1 の 8.3.8.7 (温度上昇の検証) による過負荷引外しの正常動作を検証するために，JIS C 8201-2-1 の附属書 1 の 8.3.3.8 (過負荷引外しの検証) に規定する試験は，三相電源を用いる。ただし，過負荷引外し装置の動作の検証を 3 極直列で実施可能な漏電遮断器は，3 極を直列に接続して実施してもよい。</u>	2) <u>組合せ試験シーケンス JIS C 8201-2-1 の附属書 1 の 8.3.8.2 (過負荷引外しの検証) による過負荷引外しの正常動作を検証するために，JIS C 8201-2-1 の附属書 1 の 8.3.5.2 (過負荷引外しの検証) に規定する単極試験を，電圧相の可能な組合せで順番に行う 2 極試験に置き換えて行う。</u> <u>JIS C 8201-2-1 の附属書 1 の 8.3.8.8 (過負荷引外しの検証) による過負荷引外しの正常動作を検証するために，JIS C 8201-2-1 の附属書 1 の 8.3.3.8 (過負荷引外しの検証) に規定する試験は，三相電源を用いる。ただし，過負荷引外し装置の動作の検証を 3 極直列で実施可能な漏電遮断器は，3 極を直列に接続して実施してもよい。</u>
	8.8.6 b)	b) <u>動作時間の検証</u> 試験は，表 1 で規定する各電流値で，連続して 2 回測定する。スイッチ S ₁ 及び漏電遮断器を閉路して，スイッチ S ₂ を閉路して，急に漏電電流を流す。	b) <u>動作時間の検証</u> 試験は，表 1 で規定する各電流値の 2 倍になるように調整し，スイッチ S ₁ 及び漏電遮断器を閉路して，スイッチ S ₂ を閉路して，急に漏電電流を流す。

区分	位置	誤	正
附属書 2	8.1.1 a)	a) 形式試験 漏電遮断器は、JIS C 8201-2-1 の附属書 2 の箇条 8 の関連する全ての試験を行う。これらの試験シーケンスにおける耐電圧の検証 [JIS C 8201-2-1 の附属書 2 の 8.3.3.5 (過負荷性能) 参照] において、電源電圧依存形漏電遮断器の漏電検出用電子回路を接続した端子間は、実施しない。	a) 形式試験 漏電遮断器は、JIS C 8201-2-1 の附属書 2 の箇条 8 (試験) の関連する全ての試験を行う。これらの試験シーケンスにおける耐電圧の検証 [JIS C 8201-2-1 の附属書 2 の 8.3.3.6 (耐電圧の検証) 参照] において、電源電圧依存形漏電遮断器の漏電検出用電子回路を接続した端子間は、実施しない。
	8.1.1 b)	b) 受渡試験 漏電遮断器は、JIS C 8201-2-1 の附属書 2 の 8.4 (受渡試験) [8.4.4 (不足電圧引外し装置及び電圧引外し装置の動作検証) を除く。] を適用する。	b) 受渡試験 漏電遮断器は、JIS C 8201-2-1 の附属書 2 の 8.4 (受渡試験) を適用する。
	8.1.2.2.2	過負荷引外し装置の正常動作を検証するために、電圧相の全ての可能な組合せで順番に行う 2 極試験の代わりに、JIS C 8201-2-1 の附属書 2 の 8.3.5.1 (一般) 及び JIS C 8201-2-1 の附属書 2 の 8.3.5.4 (耐電圧の検証) に規定する単極試験を行う。試験条件は、JIS C 8201-2-1 の附属書 2 の 8.3.5.1 及び JIS C 8201-2-1 の附属書 2 の 8.3.5.4 の規定による。ただし、 <u>過電流引外し装置の動作の検証を、単極で実施可能な漏電遮断器にあっては、単極で実施してもよい。</u>	過負荷引外し装置の正常動作を検証するために、電圧相の全ての可能な組合せで順番に行う 2 極試験の代わりに、JIS C 8201-2-1 の附属書 2 の 8.3.5.2 (過負荷引外しの検証) 及び JIS C 8201-2-1 の附属書 2 の 8.3.5.5 (過負荷引外しの検証) に規定する単極試験を行う。試験条件は、JIS C 8201-2-1 の附属書 2 の 8.3.5.2 及び JIS C 8201-2-1 の附属書 2 の 8.3.5.5 の規定による。ただし、 <u>過負荷引外し装置の動作の検証を、単極で実施可能な漏電遮断器にあっては、単極で実施してもよい。</u>
	8.1.2.2.3 a)	a) 定格短時間耐電流試験中の動作 該当する場合、JIS C 8201-2-1 の附属書 2 の 8.3.6.2 (過負荷引外しの検証) 又は JIS C 8201-2-1 の附属書 2 の 8.3.8.2 (過負荷引外しの検証) の試験中に動作してはならない。	a) 定格短時間耐電流試験中の動作 該当する場合、JIS C 8201-2-1 の附属書 2 の 8.3.6.3 (定格短時間耐電流試験) 又は JIS C 8201-2-1 の附属書 2 の 8.3.8.3 (定格短時間耐電流試験) の試験中に動作してはならない。
	8.1.2.2.3 b) 1)	1) 試験シーケンス IV JIS C 8201-2-1 の附属書 2 の 8.3.6.1 (一般) 及び JIS C 8201-2-1 の附属書 2 の 8.3.6.6 (耐電圧の検証) による過負荷引外しの正常動作を検証するために、電圧相の全ての可能な組合せで順番に行う 2 極試験の代わりに、JIS C 8201-2-1 の附属書 2 の 8.3.5.1 (一般) に規定する単極試験を行う。 <u>過負荷引外し装置の動作の検証を、単極で実施可能な漏電遮断器には、単極で実施してもよい。</u>	1) 試験シーケンス IV JIS C 8201-2-1 の附属書 2 の 8.3.6.2 (過負荷引外しの検証) 及び JIS C 8201-2-1 の附属書 2 の 8.3.6.7 (過負荷引外しの検証) による過負荷引外しの正常動作を検証するために、電圧相の全ての可能な組合せで順番に行う 2 極試験の代わりに、JIS C 8201-2-1 の附属書 2 の 8.3.5.2 (過負荷引外しの検証) に規定する単極試験を行う。 <u>過負荷引外し装置の動作の検証を、単極で実施可能な漏電遮断器には、単極で実施してもよい。</u>

区分	位置	誤	正
附属書 2	8.1.2.2.3 b) 2)	<p>2) 組合せ試験シーケンス JIS C 8201-2-1 の附属書 2 の 8.3.8.1 (一般) による過負荷引外しの正常動作を検証するために、電圧相の全ての可能な組合せで順番に行う 2 極試験の代わりに、JIS C 8201-2-1 の附属書 2 の 8.3.5.1 に規定する単極試験を行う。</p> <p>JIS C 8201-2-1 の附属書 2 の 8.3.8.7 (温度上昇の検証) による過負荷引外しの正常動作を検証するために、JIS C 8201-2-1 の附属書 2 の 8.3.3.8 に規定する試験に三相電源を用いる。</p> <p><u>過負荷引外しの試験方法として、3 極を直列に接続して試験電流を通电してもよい。</u></p>	<p>2) 組合せ試験シーケンス JIS C 8201-2-1 の附属書 2 の 8.3.8.2 (過負荷引外しの検証) による過負荷引外しの正常動作を検証するために、電圧相の全ての可能な組合せで順番に行う 2 極試験の代わりに、JIS C 8201-2-1 の附属書 2 の 8.3.5.2 (過負荷引外しの検証) に規定する単極試験を行う。</p> <p>JIS C 8201-2-1 の附属書 2 の 8.3.8.8 (過負荷引外しの検証) による過負荷引外しの正常動作を検証するために、JIS C 8201-2-1 の附属書 2 の 8.3.3.8 (過負荷引外しの検証) に規定する試験に三相電源を用いる。</p> <p><u>過負荷引外しの試験方法として、3 極を直列に接続して試験電流を通电してもよい。</u></p>
	8.1.2.2.4	<p>過負荷引外し装置の正常動作を検証するために、電圧相の全ての可能な組合せで順番に行う 2 極試験の代わりに、JIS C 8201-2-1 の附属書 2 の 8.3.7.4 (耐電圧の検証) 及び JIS C 8201-2-1 の附属書 2 の 8.3.7.8 (耐電圧の検証) に規定する単極試験を行う。試験条件は、JIS C 8201-2-1 の附属書 2 の 8.3.7.4 及び JIS C 8201-2-1 の附属書 2 の 8.3.7.8 の規定による。ただし、<u>過負荷引外し装置の動作の検証を、単極で実施可能な漏電遮断器は、単極で実施してもよい。</u></p> <p>JIS C 8201-2-1 の附属書 2 の 8.3.7 (試験シーケンス V: ヒューズ組込み形回路遮断器の性能) の試験後、漏電遮断器の正常動作の検証を、8.2.4.3 に従って行う。</p>	<p>過負荷引外し装置の正常動作を検証するために、電圧相の全ての可能な組合せで順番に行う 2 極試験の代わりに、JIS C 8201-2-1 の附属書 2 の 8.3.7.5 (過負荷引外しの検証) 及び JIS C 8201-2-1 の附属書 2 の 8.3.7.9 (過負荷引外しの検証) に規定する単極試験を行う。試験条件は、JIS C 8201-2-1 の附属書 2 の 8.3.7.5 及び JIS C 8201-2-1 の附属書 2 の 8.3.7.9 の規定による。ただし、<u>過負荷引外し装置の動作の検証を、単極で実施可能な漏電遮断器は、単極で実施してもよい。</u></p> <p>JIS C 8201-2-1 の附属書 2 の 8.3.7 (試験シーケンス V: ヒューズ組込み形回路遮断器の性能) の試験後、漏電遮断器の正常動作の検証を、8.2.4.4 に従って行う。</p>
	8.1.2.2.5	<p>JIS C 8201-2-1 の附属書 2 の 8.3.8 (試験シーケンス VI: 組合せ試験シーケンス) の試験後、漏電遮断器の正常動作の検証を、8.2.4.3 に従って行う。</p>	<p>JIS C 8201-2-1 の附属書 2 の 8.3.8 (試験シーケンス VI: 組合せ試験シーケンス) の試験後、漏電遮断器の正常動作の検証を、8.2.4.4 に従って行う。</p>

a) 箇条 5 の表 3 (誤)






(誤)
表 3 - 製品情報

番号	事項	表示位置
1.1	テスト装置の操作手段 (附属書 1 及び附属書 2 の 7.2.6 参照) を “テストボタン” の語句, 記号 “T” などです。	Visible
1.2	<p>直流成分を含む又は含まない漏電電流における動作特性</p> <p>— AC 形漏電遮断器の記号:  (IEC 60417-6148:2012-01)</p> <p>— A 形漏電遮断器の記号:  (IEC 60417-6149:2012-01)</p> <p>— B 形漏電遮断器の記号:  (IEC 60417-6398:2017-12)</p> <p>又は  (IEC 60417-6149:2012-01 + IEC 60417-6160:2012-04 + IEC 60417-6297:2014-11)</p>	Visible
1.3	定格感度電流 $I_{\Delta n}$	Visible
2.1	該当する場合には, 感度電流設定	Marked
2.2	慣性不動作時間。時延形に適用し, 定格感度電流の 2 倍における慣性不動作時間の前に記号 Δt を付けて表示, <u>又は慣性不動作時間である旨の表示をする。</u>	Marked
2.3	三相電源専用に適用する表示記号: 1 (IEC 60417-6364:2016-07)	Marked
3.1	I_{cu} の 25 % より大きい場合は, 定格漏電短絡投入及び遮断容量 $I_{\Delta m}$ (4.3 参照)。	Literature
3.2	テスト回路の結線図を含む結線図。該当する場合, 電源電圧依存形漏電遮断器には, 電源に対する結線図	Literature
3.3	定格感度電流の 0.5 倍の電流を超える場合は, 定格漏電不動作電流 ($I_{\Delta no}$)	Literature
<p>記号説明 表示位置への表示に対する意味は, 次のとおりである。</p> <p>“Visible”: 漏電遮断器を設置したとき, 正面からよく見えなければならない。</p> <p>“Marked”: 漏電遮断器上に表示しなければならない。</p> <p>“Literature”: 製造業者が発行する資料に記載しなければならない。</p>		

b) 箇条 5 の表 3 (正)

(正)

表 3－製品情報

番号	事項	表示位置
1.1	テスト装置の操作手段(附属書 1 及び附属書 2 の 7.2.6 参照)を“テストボタン”の語句、記号“T”などで示す。	Visible
1.2	<p>直流成分を含む又は含まない漏電電流における動作特性</p> <p>－ AC 形漏電遮断器の記号： (IEC 60417-6148:2012-01)</p> <p>－ A 形漏電遮断器の記号： (IEC 60417-6149:2012-01)</p> <p>－ B 形漏電遮断器の記号： (IEC 60417-6398:2017-12)</p> <p>又は  (IEC 60417-6149:2012-01 + IEC 60417-6160:2012-04 + IEC 60417-6297:2014-11)</p> <p><u>附属書 2 の漏電遮断器では、“直流成分を含む又は含まない”ものの表示はしなくてもよい。</u></p>	Visible
1.3	定格感度電流 $I_{\Delta n}$	Visible
1.3A	高速形の場合、その旨の表示(例、“高速形”、“0.1 s 以下”など)	Visible
1.3B	定限時時延形の場合、 $I_{\Delta n}$ における動作時間(動作時間の変動範囲は、製造業者が説明書などに明示する。)	Visible
2.1	該当する場合には、感度電流設定	Marked
2.2	慣性不動作時間。時延形に適用し、定格感度電流の 2 倍における慣性不動作時間の前に記号 Δt を付けて表示、又は慣性不動作時間である旨の表示をする。	Marked
2.3	三相電源専用に適用する表示記号：  (IEC 60417-6364:2016-07)	Marked
3.1	I_{cu} の 25 % より大きい場合は、定格漏電短絡投入及び遮断容量 $I_{\Delta m}$ (4.3 参照)。	Literature
3.2	テスト回路の結線図を含む結線図。該当する場合、電源電圧依存形漏電遮断器には、電源に対する結線図	Literature
3.3	定格感度電流の 0.5 倍の電流を超える場合は、定格漏電不動作電流 ($I_{\Delta no}$)	Literature
3.3A	单相 3 線式回路専用の場合、その旨を記載	Literature
<p>記号説明 表示位置への表示に対する意味は、次のとおりである。</p> <p>“Visible”： 漏電遮断器を設置したとき、正面からよく見えなければならない。</p> <p>“Marked”： 漏電遮断器上に表示しなければならない。</p> <p>“Literature”： 製造業者が発行する資料に記載しなければならない。</p>		